

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—66759

⑮ Int. Cl.³
B 65 D 47/08

識別記号

庁内整理番号
8208—3E

⑯ 公開 昭和59年(1984)5月4日

審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑰ 瓶 蓋

⑱ 実 願 昭57—161588

⑲ 出 願 昭57(1982)10月25日

⑳ 考 案 者 林田光治

奈良県北葛城郡広陵町寺戸27番

地

㉑ 出 願 人 三笠産業株式会社

奈良県北葛城郡広陵町萱野651
ノ 1

㉒ 代 理 人 弁理士 齊藤 侑

外 2 名

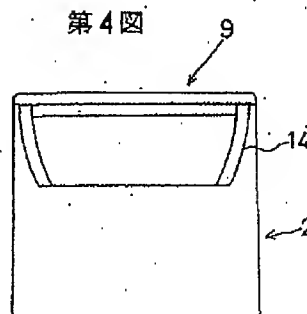
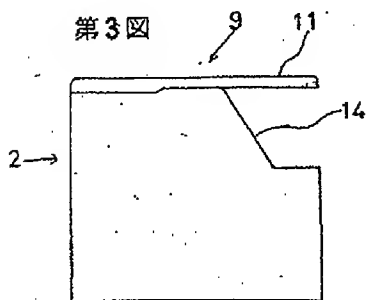
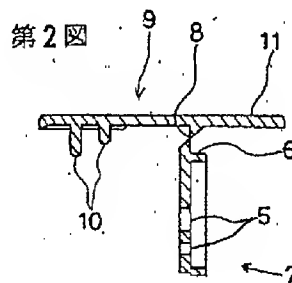
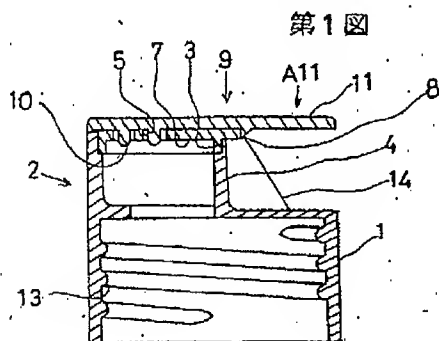
㉓ 実用新案登録請求の範囲

合成樹脂製で、瓶口に装着する装着部 1 を有する下蓋 2 の上部の一部に、上方に突出させて、係合部 3 を有する放出室 4 を設け、又、合成樹脂製で、通孔 5 及び被係合部 6 を有する中蓋 7 の、該被係合部 6 を前記係合部 3 に係合させ、該中蓋 7 に、一体的に設けたヒンジ 8 を介して外蓋 9 を設け、該外蓋 9 の、前記ヒンジ 8 の一侧に、前記通孔 5 に挿入する突起 10 を設け、かつ他側に押圧部 11 を設けたことを特徴とする瓶蓋。

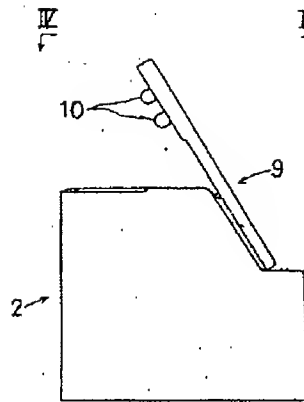
図面の簡単な説明

図面はこの考案の実施例を示すもので、第 1 図は瓶蓋の断面図、第 2 図は瓶蓋の部品の断面図、第 3 図は瓶蓋の正面図、第 4 図は側面図、第 5 図は瓶蓋の開蓋時の正面図、第 6 図は第 5 図の IV—IV 線矢視図、第 7 図は瓶蓋の、下蓋の平面図である。

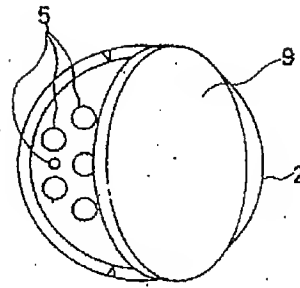
1…装着部、2…下蓋、3…係合部、4…放出室、5…通孔、6…被係合部、7…中蓋、8…ヒンジ、9…外蓋、10…突起、11…押圧部。



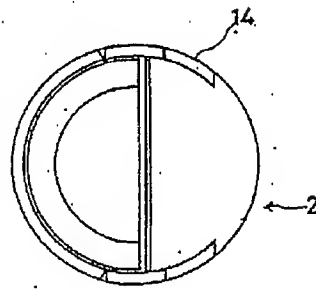
第5図



第6図



第7図



公開実用 昭和 59 — 66759

Ref 3

対応・英抄なし

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—66759

⑧ Int. Cl.³
B 65 D 47/08

識別記号

庁内整理番号
8208—3E

⑭ 公開 昭和59年(1984)5月4日

審査請求 未請求

(全 頁)

① 瓶 蓋

② 実 願 昭57—161588
② 出 願 昭57(1982)10月25日

② 考 案 者 林田光治
奈良県北葛城郡広陵町寺戸27番

② 出 願 人 地
三笠産業株式会社
奈良県北葛城郡広陵町萱野651
ノ1
③ 代 理 人 弁理士 齊藤脩 外2名

明 細 書

1. 考案の名称

瓶蓋

2. 実用新案登録請求の範囲

合成樹脂製で、瓶口に装着する装着部(1)を有する下蓋(2)の上部の一部に、上方に突出させて、係合部(3)を有する放出室(4)を設け、又、合成樹脂製で、通孔(5)及び被係合部(6)を有する中蓋(7)の、該被係合部(6)を前記係合部(3)に係合させ、該中蓋(6)に、一体的に設けたヒンジ(8)を介して外蓋(9)を設け、該外蓋(9)の、前記ヒンジ(8)の一侧に、前記通孔(5)に挿入する突起(10)を設け、かつ他側に押圧部(11)を設けたことを特徴とする瓶蓋。

3. 考案の詳細な説明

この考案は粉体、粒体、液体等の調味料等を収容する瓶蓋に関するものである。

この考案の目的は、簡単な構造で、きわめて容易に、かつ片手で瓶口の開閉のできる瓶蓋を得ることである。



この考案を、実施例を示す図面について述べると、オ 1 図～オ 7 図において、合成樹脂製で、瓶口に装着する装着部 1 を有する下蓋 2 の上部の一部に、上方に突出させて、係合部 3 を有する放出室 4 を設け、又、合成樹脂製で、通孔 5 及び被係合部 6 を有する中蓋 7 の、該被係合部 6 を前記係合部 3 に係合させ、該中蓋 6 に一体的に設けたヒンジ 8 を介して外蓋 9 を設け、該外蓋 9 の、前記ヒンジ 8 の一侧に、前記通孔 5 に挿入する突起 10 を設け、かつ他側に押圧部 11 を設けたことを特徴とする瓶蓋である。

なお図中 13 は図示しない瓶口に螺着するための螺糸、14 は外蓋 9 の回転を止めるストッパーである。

又中蓋 7、外蓋 9 は一体的に形成され、一例としてポリプロピレン樹脂により形成された。又下蓋 2 はポリエチレン樹脂により形成された。但し両蓋 9、2 とも他の適宜の合成樹脂で形成されても差支えはない。

中蓋 7 及び外蓋 9 はオ 2 図に示すように形成さ



れ、該両者 7、9 はともに若干剛性を有するよう
に形成され、特に外蓋 9 は、その押圧部 11 を
押圧しても折れ曲つてしまうことなく、ヒンジ
8 を支点として挺子状に回動するようになつて
いる。又前記係合部 3、被係合部 6 は固く圧接し
て嵌合するようになつている。

この瓶蓋は才 1 図に示すように形成され、装着
部 1 により図示しない瓶口に螺着して用いる。
消費者等がその瓶の内容品を出す場合は、その
瓶をもち、それを持つた手の指（親指等が適し
ていよう）により前記押圧部 11 を、矢印 11 の方
向に押圧する。そうすると、外蓋 9 は前記ヒンジ
8 を支点として挺子として回動し、才 5 図に示
すように開く。この場合前記突起 10 は通孔 5 か
ら抜脱しているから、この状態で瓶の内容品を
出す。その操作が終つたならば、前記の指と同
一の指等で、外蓋 9 を、突起 10 の反対側から押
圧し、才 1 図に示すように閉止する。なおこの
閉止により、瓶内容品が粉体であつた際は、通
孔 5 に付着した粉体を、突起 10 が払い落す作用



をする。

この考案は上記のように構成されたことにより
ヒンジ 8 を、ヒンジとして、又挺子の支点とし
て、両方の作用をなさゑめることができるから
簡単な構造で、きわめて容易に、しかも片手で
瓶を持つたまま開閉することができる。

4. 図面の簡単な説明

図面はこの考案の実施例を示すもので、才 1
図は瓶蓋の断面図、才 2 図は瓶蓋の部品の断面
図、才 3 図は瓶蓋の正面図、才 4 図は同側面図、
才 5 図は瓶蓋の開蓋時の正面図、才 6 図は才 5
図の N—N 線矢視図、才 7 図は瓶蓋の、下蓋の
平面図である。

1 … 装着部

2 … 下蓋

3 … 係合部

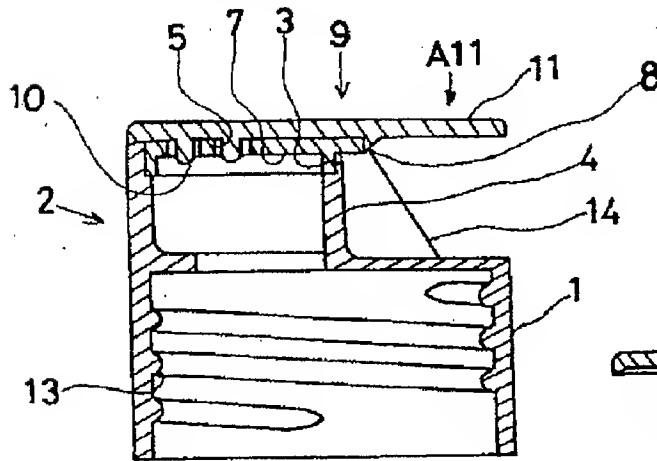
4 … 放出室

5 … 通孔

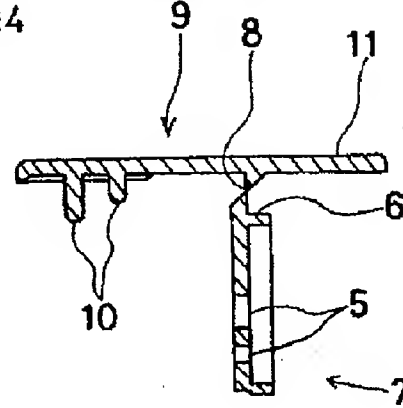
6 … 被係合部

7 … 中蓋

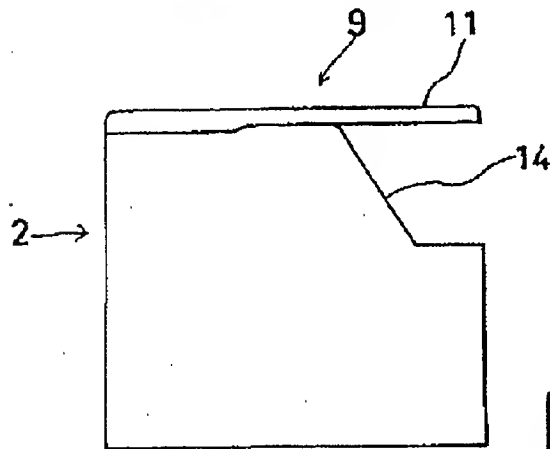
第 1 図



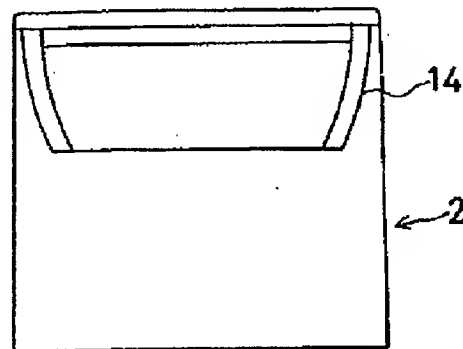
第 2 図



第 3 図



第 4 図 9

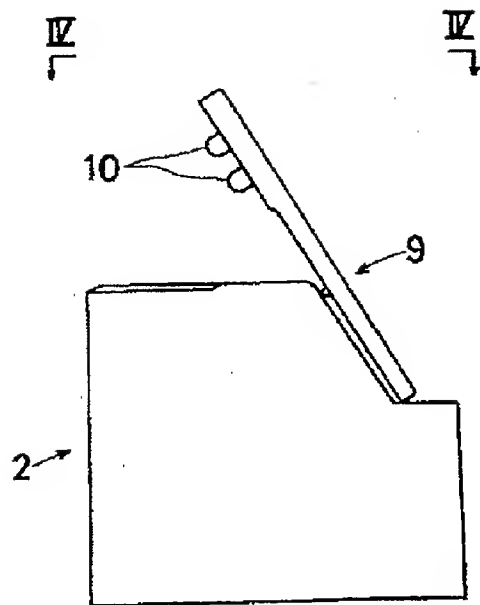


568

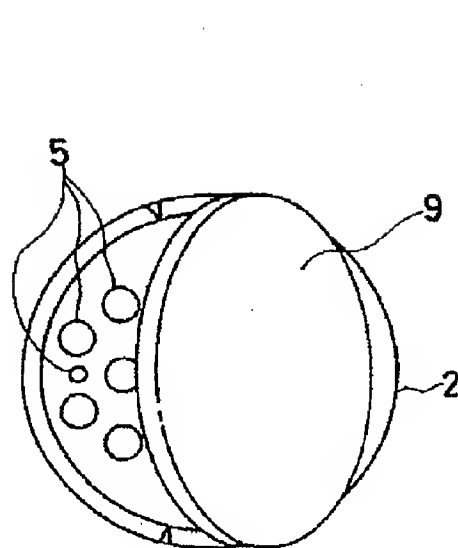
実開 59-66759

代理人 斎藤 侑

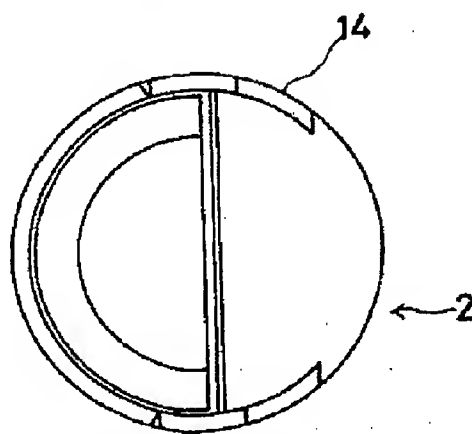
第 5 圖



第 6 圖



第 7 圖



569

実開59-66759

代理人 斎藤 備